

2-6. センターエリア

(1) デザインの展開について

- ・低炭素社会の実現に向けて、都市のヒートアイランド現象緩和のための「風の道」づくりの試みが世界各地で行われている。公園、緑道、農地等のまとまりのある緑や河川、池等の水辺と、街路・住宅地の緑化、建物の屋上緑化等によりつくられた緑とのネットワーク化を進め、都市の中での涼風の通り道を確認するものである。
- ・本フェアでは、「風の道」を多くの協働を得ながら展示していく。
- ・とりわけセンターエリアでは、花や緑と一体となり都市に快適性を提供する風を整備キーワードとして、爽やかな風が感じられる、花に彩られた雄大な景観づくりを検討する。
- ・その景観づくりを通して、「爽やかな風、愛知にそよげ」という、都市における花や緑の増加により、心地よい風が吹き抜ける愛知の創造を目指したメッセージを発信することを検討する。

表 -26 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
風	「爽やかな風、愛知にそよげ」	穏やかにそよぐ風が感じられる雄大な景観	休憩サービスやステージでの催事の展開
		<ul style="list-style-type: none"> ・あいちの花の大景観 ・風にそよぐ花畑 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適なそよ風の中での休憩、飲食 ・ステージでの催事 ・花卉や観葉植物等の展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -27 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
風の花畑	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知の花をダイナミックに見せる大花壇 ・ステージ等と一体となった雄大な景観を創出 ・指定管理者の花畑づくりの経験や技術を活かした展開 	9000m ² 程度	主催者 公園管理者 企業 等
あいちの樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩場所に潤いを提供する植栽基盤を確保した緑の展示 ・県内産の植木の展示や鉢物(観葉植物)の展示 ・愛知県産の陶磁器等を利用した花鉢展示 ・誰でも利用できるパラソル付きテーブル上の寄せ植え展示 	3000m ² 程度	主催者 企業 県民 等

(3) 催事関係施設(案)

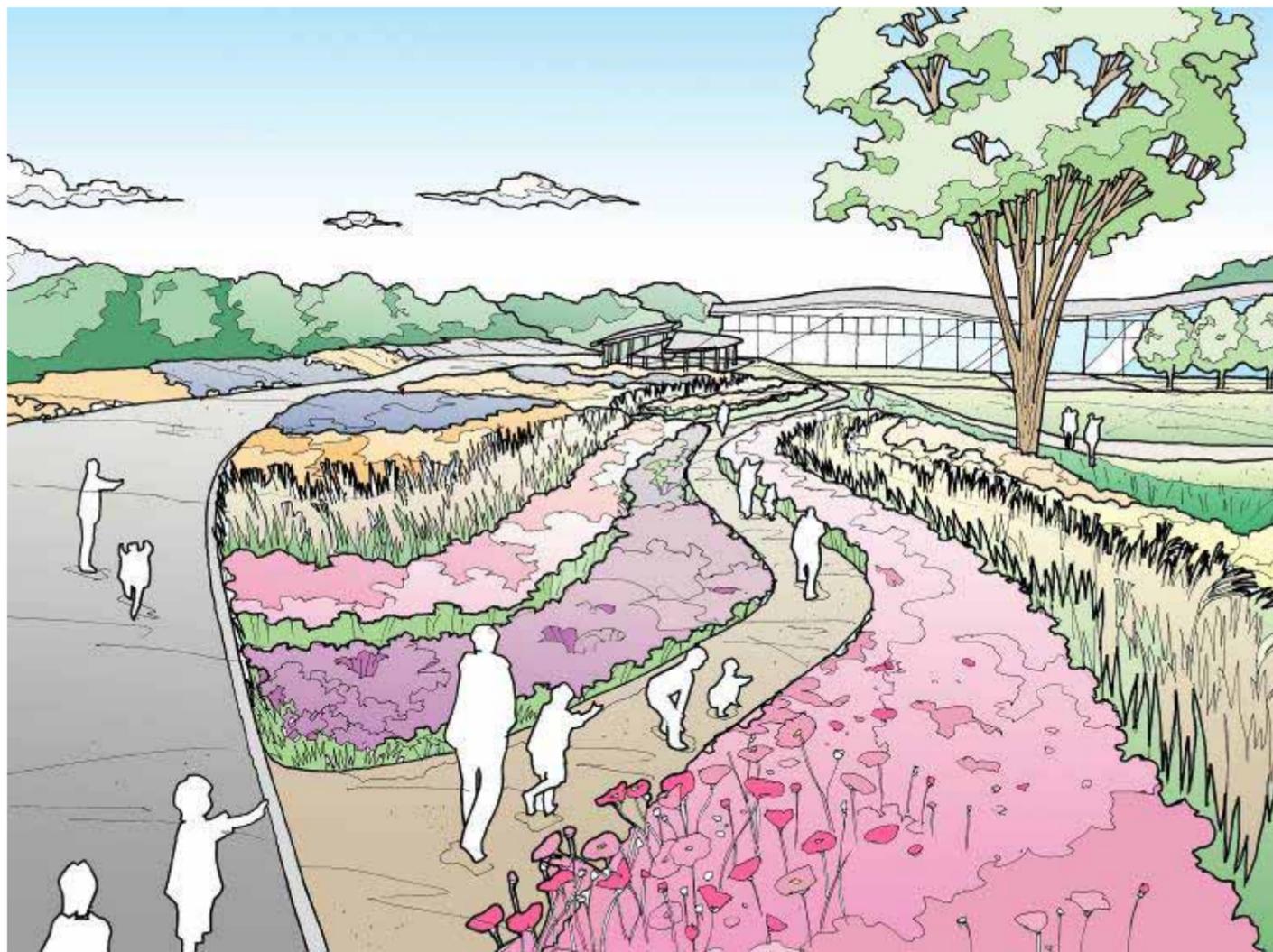
表 -28 催事関係施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園事業で整備されるステージを利用 ・フェアでの催事を開催 		主催者 各催事実施主体 等
三日月シェルター	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の三日月シェルターを利用 ・屋内型催事を提供 	1700m ² : シェルター面積	主催者等

(4) 管理運営・営業施設

表 -29 管理運営・営業施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
レストラン 喫茶・売店	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール及びアイススケート場の既存の飲食物販施設を利用 		公園管理者 等
テイクアウト飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のマス周辺に配置 	30m ² × 3 程度	主催者 営業者 等
一般物販	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のマス周辺に配置 ・万博関連グッズやフェアグッズを販売 	30m ² 程度	主催 営業者 等



休憩飲食・あいちの樹木



図 -10 センターエリア展開イメージ

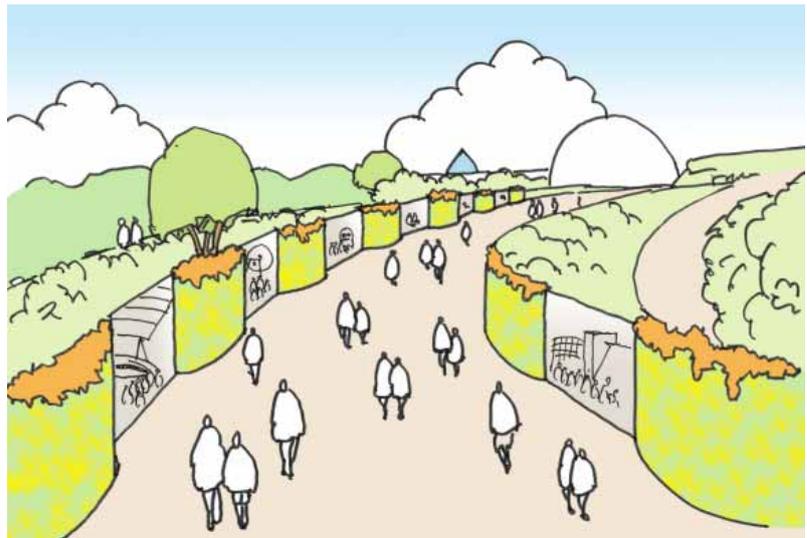
2-7. 全域を通した展開

(1) 主園路沿いでの展開(案)

・回遊動線となる主園路沿いでは、園路を楽しく歩けるような演出を検討する。

表 -30 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
花の緑化壁	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博のバイオラングの進化形として花による緑化壁展開 ・住宅の玄関のエクステリアの壁やマンションのベランダ内壁面等の修景システムとしての提案 ・ビル外壁等の大規模建築への提案 	幅 4m × 20 区画程度	企業 アーティスト等
トリックアート	<ul style="list-style-type: none"> ・園路にトリックアートをシール状のシートにより貼り付け、各エリアのテーマを楽しく、わかりやすく演出する展示 ・「空」「土」や「空」「木」など エリアのテーマを踏まえた異なる展開 		大学(芸術系) 等



花の緑化壁



トリックアート

3 . 花壇・修景計画

3-1 . 基本的な考え方

日本一の花卉生産県 あいちの花の素晴らしさを発信

- ・愛知県は、キクをはじめとする切り花や、洋ラン・観葉植物等の鉢物生産が非常に盛んで、日本一の花卉生産県である。
- ・花卉産業の振興に繋がるよう、使用する植物は、愛知県産材にこだわり、「あいちの花」の素晴らしさを来園者に伝える。
- ・各エリアでの特徴を持たせながら、会場全体で花や緑の美しさが演出できるよう、効果的な展開を図る。



ポインセチア



ケイトウ



シクラメン



スプレーギク

(1)花壇・修景演出の基本方針

愛知県産の花材を利用

- ・展示や修景に使用する植物は、あいちの花の魅力を来園者に伝えるとともに、花への興味を喚起するよう、愛知県産の花材を利用することを原則とする。

愛知万博の記憶や会場の地形を活かした演出

- ・愛知万博で夏季から秋季に使用されていた花材を印象的に利用し、愛知万博の記憶を喚起する演出を図る。
- ・会場の地形や特徴を活かし、フェアとして来場者に感動と驚きを与えるダイナミックな修景と特徴のある花壇の演出を図る。また、来園者のたどるシーン展開や各エリアの魅力を引き出す演出を検討する。

会場の統一感を演出

- ・エリア毎に特徴のある景観の創出に向けた演出を行う一方で、会場全体のまとまりを印象付けるため、エリアを繋ぐ動線沿いに連続性が感じられる花壇修景を行う。
- ・修景花壇は展示物や施設等と一体的なデザインによる演出を図る。

景観ポイントの演出

- ・各エリアをはじめ、会場内の景観ポイントになる箇所を撮影スポットと位置付け、草花による趣向を凝らした演出を図る。

会期中に変化する景を演出

- ・フェア開催期間内での花の見せ時を定め、第1楽章から第2楽章(オープン時)、第3楽章からフェアの終演にかけて大きく2回に分けた花壇の展開を図る。また、テーマに応じた花壇コンセプトを設定し、花の入れ替え等による演出を展開する。

3-2. 植栽の基本方針

(1) 植物材料

屋外修景植物

- ・屋外花壇に使用する鉢物、苗物は開催時期に合わせて開花等の生育管理・調整を行ったものを使用する。また、花壇への播種時期は開花期を考慮して調整する。
- ・開催時期を考慮し耐暑性、耐乾性に優れた植物を使用する。

屋内修景植物

- ・屋内修景に使用する切り花は、観賞期間を確保するため適切な処理を行う。また鉢物類も開催時期に合わせて調整したものを使用する。



出展 愛知県花き園芸温室組合 HP

(2) 植栽密度

- ・会場の規模や植栽面積、事業費を考慮した植栽密度とし、花壇目的に合わせて疎密の使い分けを行う。
- ・鉢物や苗物は、草花の生育を考慮した植付け間隔を確保する。

(3) 植栽基盤

- ・計画地の土壌は、植栽土壌として芳しくない。花の植栽のために植栽基盤を創出して、期間中の良好な生育環境を確保する。

(4) 植替え

- ・フェア会期中は、植栽計画に準じて植え替えを行う。また、植栽計画以外でも植物の生育状況に応じた補植等を行う。
- ・緑化壁やモザイクカルチャー(立体花壇)など、植え替えが困難な箇所については原則的に植替えを行わず会期中通期に渡り使用するため、生育を考慮した植物の選定を行う。
- ・ススキなどグラス類については、通期使用するため植え替えを行わないこととする。また通期使用する植物の周辺花壇については使用植物とのバランスを考慮した配植とする。

1) 会期前半

フェアのはじまりを彩る花壇

- ・第1楽章～第2楽章(9/12～10/12)を会期前半の目安とする。
- ・夏の名残を感じさせ、フェアのはじまりにふさわしい鮮やかな色彩の草花の配植とする。
- ・ポットマム、ケイトウ、コリウス、ジニア、コスモス等の花材を使用する。



2) 会期後半

秋の実りや上品な優雅さをイメージさせる花壇

- ・第3楽章～第4楽章(10/13～11/8)を会期後半の目安とする。
- ・秋の深まりを感じられる植物を配植し、フェア終演を飾る。
- ・ポットマム、ポインセチア、ガーデンシクラメン、ケイトウ、コスモス等の花材を使用する。



(5) 各エリアの花壇演出

1) 地球市民のエリア

演出方針

- ・花の苗等を用いた立体的な緑化壁で来園者を迎えるとともに、草丈の高い草花で視覚を制限し、空を背景とした印象的な驚きの景観を提供する。
- ・アートウォールやグリーンウォールと一体的なデザインとなる色彩豊かな花による構成とする。

花壇形態例

- ・立体ガーデン

- ・混植ガーデン

使用植物例

- ・バジル、セダム類、サントリナ、アキランサス、シュウメイギク、セージ類、ダリア、ガウラ、コスモス等



2) 農のエリア

演出方針

- ・園路沿いに草丈、色、形状の異なる様々な種類を組み合わせ、単調にならないようパターンに変化を持たせる。
- ・全体に農の風景との連続性が感じられる花壇構成を検討する。
- ・花壇輪郭を明確化せず、自然な広がりを感じさせる配植を行う。
- ・植栽密度に強弱をつけ、田や樹林に消えていくような花の風景とし周辺との調和を図る。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン

- ・混植ガーデン

- ・エディブルガーデン

使用植物例

- ・ナデシコ、オミナエシ、ススキ、キキョウ、フジバカマ、ヒガンバナ、ノカンゾウ、ノアザミ、コスモス等



3) 緑の贈りものエリア

演出方針

- ・異文化交流による景観デザインと調和した花壇を検討する。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン

4) 水辺のエリア

演出方針

- ・段状部分は出展・協賛花壇と調和を図り高低差のある草花を配植、水辺への流れを演出し、景観の統一性を図る。
- ・明るく華やかな雰囲気演出するため、暖色系で大輪景の花やボリューム感のある草花を使用する。
- ・植栽土嚢等を用いて、立体的な花壇をつくり、土嚢花壇ごとに花の配色を設定し、全体で大らかなグラデーションを描く。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン

使用植物例

- ・ペンタス、トレニア、コリウス、ジニア、サルビアファリナケア、コスモス 等



- ボーダーガーデン……………道路等に沿った帯状の細長い花壇。境栽花壇とも言う。手前から奥にだんだん背の高い花を植えるのがイングリッシュボーダー。
- 混植ガーデン……………ある程度の塊で、多様な花材を不規則に植栽した花壇。
- 立体ガーデン……………構造物等を利用した立体的な花壇。
- カーペット花壇……………丈の低い花材を群植することによって地表面に模様を描く花壇。
- グラスガーデン……………イネ科草本を主体とした花壇。
- コンパニオンプランティング…相性の良い他の植物と組み合わせて寄せ植えすることにより、病虫害の被害を最小限に抑え、かつ植物の生き生きとした成長を促して収穫量を増やしたり、風味や芳香を良くしたりする花壇。
- エディブルガーデン……………野菜等の食用の植物を用いた花壇。

5) 創造のエリア

演出方針

- ・モリゾーキッコロの形態に似た植物に、目と口を描き、ハナモモの下や園路沿いの斜面、愛・地球博記念館周辺等に、たくさんのモリゾー、キッコロの鉢物を並べる。
- ・ハンギングバスケット等による修景を行う。
- ・花を用いた緑化壁修景を行う。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン
- ・立体ガーデン

使用植物例

- ・コキア、サントリナ、アキランサス、シュウメイギク、セージ類、ダリア、ガウラ、コスモス 等



6) センターエリア

演出方針

- ・最も重要な景観ポイントに位置付け、愛知にこだわった演出を行う。
- ・雄大な景観に合わせておおらかな花壇形状とする。
- ・休憩サービスを展開する場では、植栽土嚢等を用いて、立体的な花壇をつくり、あいちの植木や花等をPRする。
- ・休憩サービスを展開する場では、テーブルに誰もが創作したり、触れる鉢植えや切花のアレンジメントを設置する。

花壇形態例

- ・カーペット花壇
- ・グラスガーデン
- ・コンパニオンプランティング
- ・寄せ植え花壇

使用植物例

- ・マリーゴールド、ポチュラカ、ジニア、グラス類、アキレア、ガーデンシクラメン、キク、コスモス、サルビア、ケイトウ、センニチコウ、ルドベキア 等



3-3. 植物調達管理の基本方針

(1) 植物調達管理の期間

表 -31 植物調達管理の期間

納品及び施工期間	・種子、球根 ・鉢物、苗物：5月上旬～11月上旬 ・切花：9月上旬～11月上旬
植栽維持管理期間	・春季～11月下旬

(2) 基本的考え方

生産者、流通業者、造園業者を含めた連絡調整体制により 花材などの植物を調達

- ・愛知県は昭和37年から現在に至るまで日本一の花卉生産を誇る「花の王国」である。生産は東三河地域を中心に県内全域で行われ、きく、ばら、洋らん、観葉植物等全国一の産出額を誇る品目が多数ある。
- ・愛知県では、フェア開催による花卉市場への影響は少ないと考えられ、通常のフェアで行われる特別な措置は講じない方向で検討する。
- ・あいちフェアでは、生産者、流通業者、造園業者を含めた連絡調整体制を整えることで、植物の調達を行う体制を検討する。

ジャストインタイムによる植物搬入

- ・会期中の花の搬入は、愛知万博で採用されていた、必要な時に必要な場所に花を搬入するジャストインタイム方式により実施することを検討する。
- ・南駐車場を中継点とした搬入システムを検討する。
- ・不測の事態に備えて、南駐車場横の野球場に鉢物、苗物等を仮置きするバックヤードを設ける。
- ・切花は、緑のリサイクルセンター周辺に仮設のプレハブ冷蔵庫を設け、必要な花材をストックする。

(3) 植物調達の対象

・植物調達の対象は、基本的には、本計画の対象となる会場の「屋外展示」・「修景花壇」・「屋外出展」で使用する植物の調達である。ただし、屋外出展において出展者自身が植物を調達するものは対象外とする。

表 -32 植物調達の対象

エリア区分	実施者区分	調達の対象
屋外出展	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民エリア ・農のエリア ・緑の贈りものエリア ・水辺のエリア ・創造のエリア ・センターエリア
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体出展 ・学校出展 ・企業、NPO、団体出展
屋内出展	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち花の屋内展示
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・花卉産業出展 ・花関係者出展 ・企業、NPO、団体出展
修景花壇	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修景花壇
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修景寄植え ・ハンギングバスケット ・切花修景

(4) 植物調達の区分

・本フェアで使用する植物調達の区分は以下のものがある。

表 - 33 植物調達の区分

調達区分	対象植物	植物調達方法
一般植物調達	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に流通する植物でフェアの開催前に特別な養生を行わない植物の調達 ・1、2年草、宿根草、球根類、その他花壇で使用する低木・地被類 	・材工分離方式(材料支給)
早期養生植物調達	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に流通する植物でフェア開催前に特別な養生を必要とするもの ・特別な調達が必要な植物 ・立体花壇など特殊な条件下で使用する植物の調達 	・材工分離方式(材料支給)
植物資材提供 (メーカー等による支給)	<ul style="list-style-type: none"> ・植木協会、種苗メーカー等、企業協賛等による植物提供 ・1、2年草、宿根草、球根類等 	・材工分離方式(材料提供)
レンタル植物提供	<ul style="list-style-type: none"> ・植木生産企業等からのレンタル形式による植物の提供 ・観葉植物等の特殊木 	・材工分離方式(材料提供)

4 . 会場整備における協働の展開

4-1 . 施設整備における協働の展開

- ・展示施設、行催事施設、管理運営・営業施設等の施設整備では、NPO、学校、企業、公園管理者、営業者等と協働しながら整備を進める。(各担当施設については、2.エリア整備方針の各エリアの表、整備主体参照)
- ・各協働者との協議では、基本計画で示した施設内容を弾力的に捉え、協働を推進しやすい工夫を行う。

4-2 . 花壇修景における協働の展開

- ・花壇修景では、花壇の維持管理に多くの力が必要となる。
- ・植替えや補植、花ガラ摘みなど、ボランティアを活用しながら推進する。
- ・ボランティアの活用では、花の世話に関する技術を専門化が伝達しながら、活動を進め、美しく仕上がった達成感や、技術の向上による満足感を得ることができる展開を検討する。

5 . 事業スケジュールの検討

・会場整備に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表 -34 会場整備事業スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	・会場基本設計業務 等
平成26年度	・会場実施設計業務 ・基盤施設整備 ・植物生産調整・植物生産 ・植物試作 等
平成27年度 (あいちフェア終了まで)	・施工監理・植栽施工監理業務 ・修景・サービス・管理施設工事 ・植栽工事・植栽維持管理 ・臨時駐車場整備工事 ・植物管理業務 ・植物生産調整・植物生産 ・植物納品 等
平成27年度 (あいちフェア終了後)	・撤去工事 ・復旧工事 等